

平成28年度



羽曳野市の財務諸表

(一般会計等概略版)

～統一的な基準による財務書類～



羽曳野市総務部財政課

平成30年3月

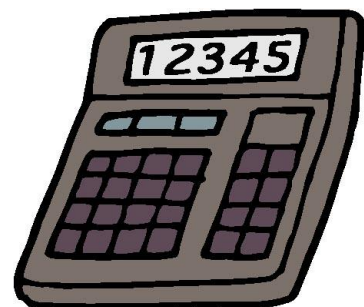
1

地方公会計制度の概要

地方公共団体の会計は、予算の適正・確実な執行を図るという観点から、確定性、客観性、透明性に優れた単式簿記による現金主義会計を採用しています。一方で、財政の透明性を高める観点から、単式簿記による現金主義会計では把握できない情報（ストック情報（資産・負債）や見えにくいコスト情報（減価償却費等））を把握する必要性が一層高まっており、そのために、単式簿記による現金主義会計を補完する目的で、複式簿記による発生主義会計の導入が求められています。

これらを受け、以前より各地方公共団体においては、団体毎に様々な会計モデルを用いて財務書類を作成していましたが、平成28年度決算からは、全ての地方自治体で、国の示す「統一的な基準」による財務書類の作成が要請されました。

これにより、発生主義・複式簿記の導入、固定資産台帳の整備がなされることとなり、「統一的な基準」で財務書類が作成されることから、団体間での財務書類の比較が容易になり、財政運営への利用が期待されています。

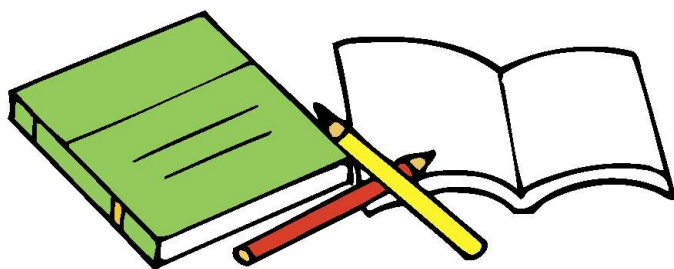


2 統一的な基準による財務書類

本市では、平成20年度決算から「総務省方式改訂モデル」を用いて財務書類を作成しておりました。平成28年度決算以降は「統一的な基準」による財務書類を作成します。

※本市における会計モデルと、その特徴

	会計モデル	固定資産台帳	発生主義・複式簿記の導入	他団体との比較
H20 ～ H27	総務省方式改訂モデル	未整備	決算統計データを用いて財務書類を作成 (複式簿記未導入)	団体により様々な会計モデルが混在しており、比較が難しい
H28 以降	統一的な基準	整備	複式簿記の導入	全国的に同じ基準で財務書類を作成するため、比較が容易



3 財務書類について

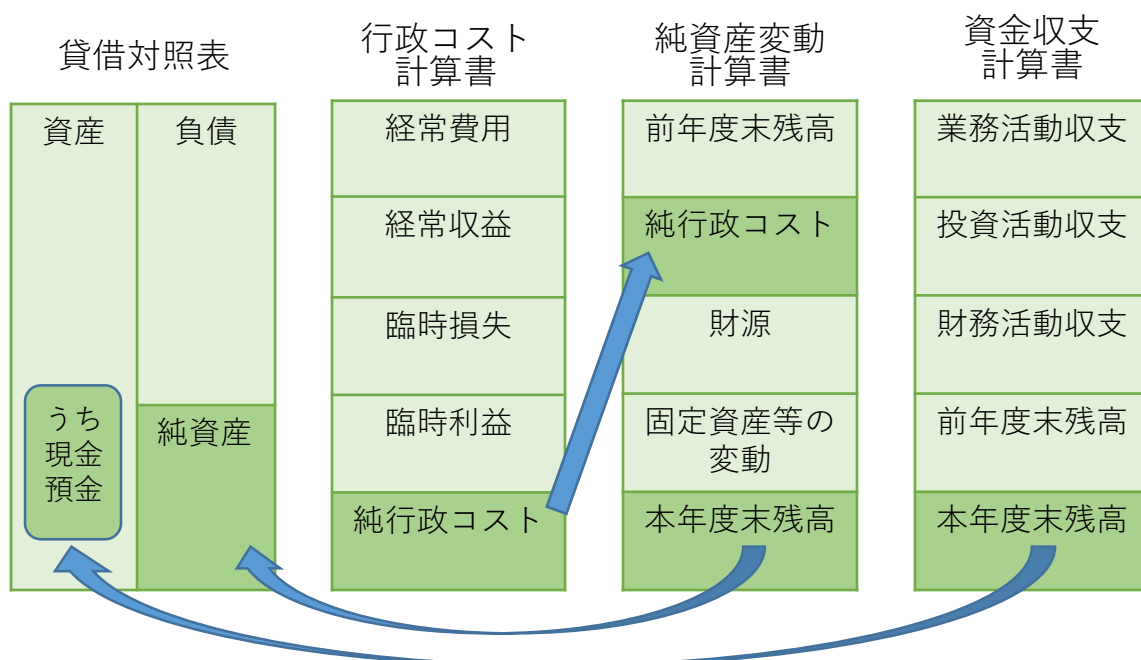
財務書類は、貸借対照表、行政コスト計算書、純資産変動計算書、資金収支計算書の4表から構成されます。

各財務書類の概要、各表の相互関係は以下のとおりです。

● 概要

名称	概要
貸借対照表	会計年度末時点に、保有している財産(資産)と、その資産がどのような財源(負債・純資産)でまかなわれているかを表示したもの
行政コスト計算書	一会計期間中の、資産形成に結びつかない経常的な行政活動に係る費用(経常的な費用)と、その行政活動と直接の対価性のある使用料・手数料などの収益(経常的な収益)の取引高を表示したもの
純資産変動計算書	貸借対照表の純資産の部に計上されている各項目が、一会計期間中でどのように変動したかを表示したもの
資金収支計算書	一会計期間中の、行政活動に伴う現金などの資金の流れを性質の異なる3つの区分(業務、投資、財務)に分けて表示したもの

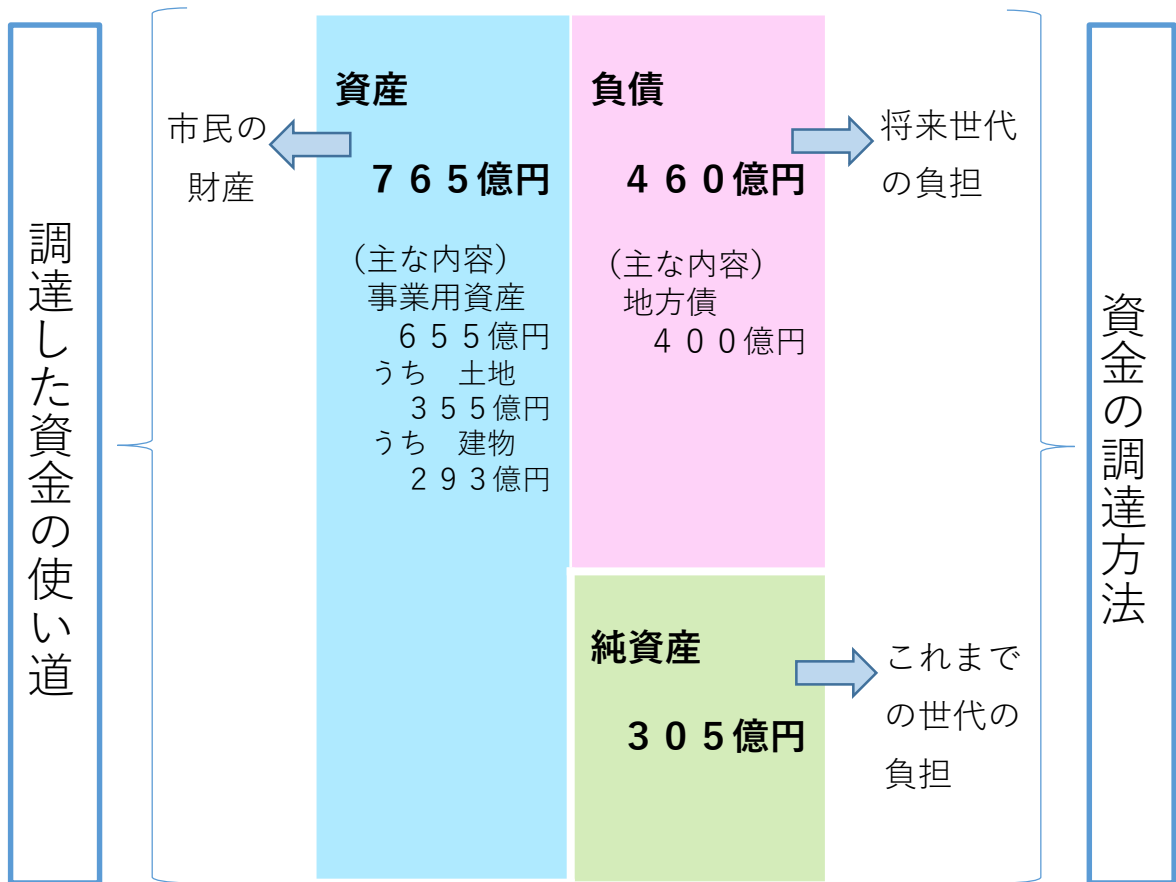
● 各表の相互関係



4 平成28年度財務書類について

一般会計等の財務書類は次のとおりです。

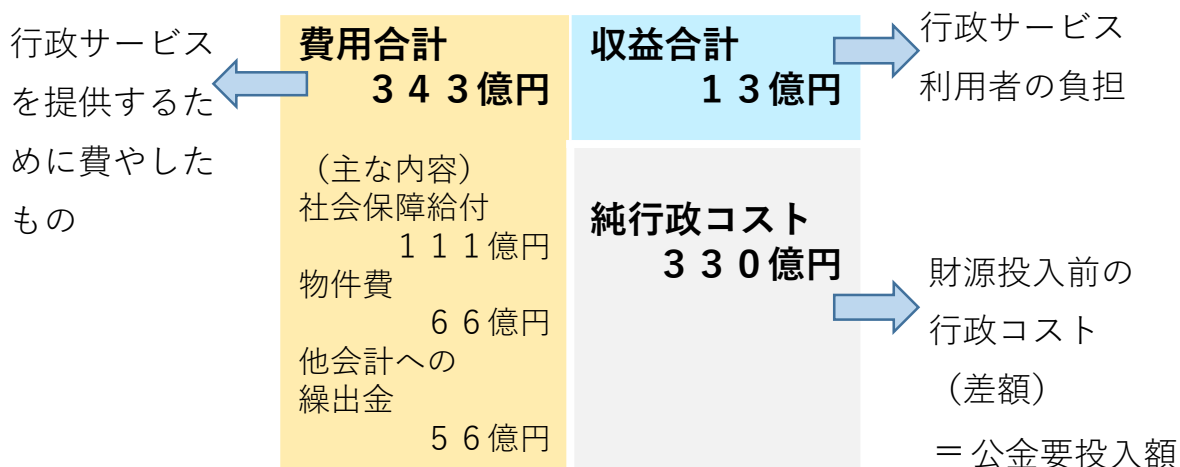
(1) 貸借対照表



< 貸借対照表から分かること >

- 事業用資産が資産全体の85.6%を占めています。
- 負債（将来世代）と純資産（これまでの世代）の世代間負担割合は、およそ6：4となっています。

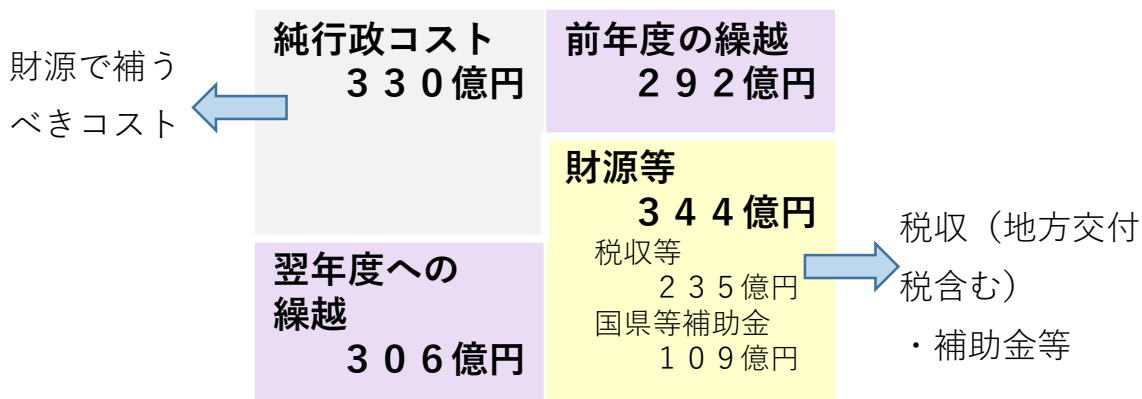
(2) 行政コスト計算書



<行政コスト計算書から分かること>

- 社会保障給付・物件費・他会計繰出金で、年間行政コストの67.9%を占めています。
- 収益合計で、行政コスト全体の3.8%をカバーしています。その結果、公金要投入額は330億円となっています。

(3) 純資産変動計算書



<純資産変動計算書から分かること>

- 財源の内訳は税金等235億円、国県等補助金が109億円となっています。
- 純行政コスト330億円に対して、財源等の合計が344億円となっており、純行政コスト(財源で補うべきコスト)を財源で賄えています。その結果、純資産残高が14億円増加しています。

(4) 資金収支計算書

業務活動収支 31億円

業務支出	▲325億円
業務収入	356億円
臨時支出	-億円
臨時収入	-億円

主な業務支出

社会保障給付支出	111億円
物件費等支出	69億円
他会計への繰出支出	56億円

主な業務収入

税金等収入	235億円
国県等補助金収入	108億円

投資活動収支 ▲12億円

投資活動支出	▲13億円
投資活動収入	1億円

投資活動支出

公共施設等整備費支出	7億円
基金積立金支出	6億円

財務活動収支 ▲19億円

財務活動支出	▲52億円
財務活動収入	33億円

主な財務活動支出

地方債償還支出	51億円
財務活動収入	
地方債発行収入	33億円

本年度資金収支額
▲1.0億円

前年度末資金残高
6.5億円

本年度末資金残高
5.5億円

本年度末歳計外現金残高
7.1億円

本年度末現金預金残高
12.6億円

< 資金収支計算書から分かること >

- 財務活動収支が19億円のマイナスとなっています。
(債務償還が進んでいる)
- プライマリーバランスは23億円のプラスとなっています。
(業務収支31億円+支払利息支出4億円+投資収支▲12億円)

5 財務書類の指標

(1) 債務償還可能年数

指標名	債務償還可能年数
視点	安全性・持続可能性
内容	債務の償還原資を、業務活動収支の黒字部分（臨時収支除く）で、どれだけ確保できているかを表す指標
計算式	$(\text{地方債残高} - \text{基金残高}) \div (\text{業務活動収支} - \text{臨時収支})$
数値	11.0（年）

(2) 有形固定資産減価償却率

指標名	有形固定資産減価償却率
視点	資産形成度
内容	耐用年数に対して、有形固定資産の取得時点からどの程度経年しているかを表す指標
計算式	$\text{減価償却累計額} \div \text{償却資産の取得価格} \times 100$
数値	53.7（%）

(3) 純資産比率

指標名	純資産比率
視点	世代間公平性
内容	資産総額のうち、過去及び現世代の負担によって形成された資産の割合を表す指標
計算式	$\text{純資産合計} \div \text{資産合計} \times 100$
数値	39.9（%）

(4) 一人当たり行政コスト

指標名	一人当たり行政コスト
視 点	効率性
内 容	住民一人当たりの行政サービスの提供にかかったコストを表す指標
計算式	純行政コスト ÷ 人口 × 100
数 値	291,017 (円)

(5) 行政コスト対税収等比率

指標名	行政コスト対税収等比率
視 点	弾力性
内 容	税収等のうち、いくらが行政コストに費消されたかを示す指標
計算式	純行政コスト ÷ 財源 × 100
数 値	96.0 (%)

(6) 受益者負担割合

指標名	受益者負担割合
視 点	自律性
内 容	行政サービスにかかったコストについて、サービスを利用した住民にどれだけ負担してもらっているかを示す指標
計算式	使用料及び手数料 ÷ 経常費用 × 100
数 値	1.69 (%)